

# JAPAN



時空を超えた

## 日本の「漆」展

JAPAN  
展

◎「悠久の美を追う」緑ヶ丘美術館・新春企画  
時を経て受け継がれてきた日本の美の最高峰「漆」。江戸期から現代まで、用の美を披露します。

2018年1月7日～3月4日まで

●開館日：(水・木・土・日曜日)・11:00～16:00 (入場は閉館の30分前まで)  
●休館日：(月・火・金曜日)

●入場無料

●会場：緑ヶ丘美術館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10  
●URL：<http://mam-museum.com> ・お問い合わせは FAX で：FAX. 0743-85-7880

MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10

# JAPAN

「老梅」(竹園自耕作)

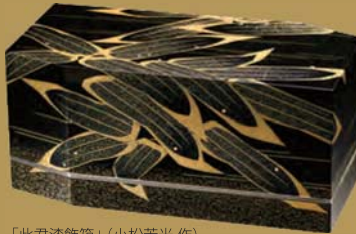
幾重にも塗重ねられた漆と磨き抜かれた光沢。  
金、銀、朱、漆黒、虹色の貝。  
森羅万象を見事に表現する日本人の感性、  
贅の美をご披露いたします。



「桜山水時絵手箱」  
(作者不明)

世界最古の漆は、はるか昔、縄文時代からとされています。約12600年前から使っていた漆。土器や椀、弓や武具、櫛や腕輪など、用途は多岐にわたっています。以来、時を経て、日本人は日常から祭祀まで、高級な美術品へと独特な感性と技法で漆製品を進化させてきました。漆のその強靱な素性、光沢は、機能性と美意識を満たすに余りあります。何度も塗り重ねられ磨き尽くされて放つ艶。金や銀、虹色に光る貝を組み合わせた蒔絵、螺鈿。漆黒の艶と華やかな朱色、そして金色の煌めき。神々しいその存在は、日本人に特別な彩りを与えてきました。

この展覧会では、江戸期から現代までの漆器をご紹介します。どうぞ、ひととき悠久の世界をご堪能ください。



「此君漆飾箱」(小松芳光作)

時空を超えた  
日本の「漆」 JAPAN  
「悠久の美を追う」緑ヶ丘美術館・新春企画  
時を経て受け継がれてきた日本の美の最高峰「漆」(うるし)。  
江戸期から現代まで、用の美を披露します。



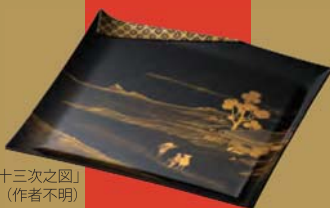
「研ぎ出し羽根ノ図加賀蒔絵箱」  
伝前田家(作者不明)



「桜山水時絵梨子地重箱」  
「桜山水時絵重台」  
(作者不明)



「大徳寺血東海道五十三次之図」  
(作者不明)



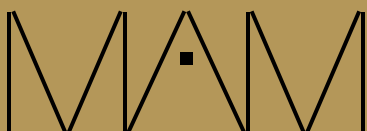
URUSHI  
異彩の妙



「瀨内洗朱まり椀」  
塗師(大崎庄工門)  
蒔絵(竹園自耕)  
彫刻(前大峯)



「草花絵変り祝い膳」  
(池田喜一作)



Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10  
URL: <http://mam-museum.com> FAX. 0743-85-7880